年間授業計画

高等学校 令和8年度（１学年用） 教科　芸術　科目 書道Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　１組～　６組

使用教科書：（　書Ⅰ/光村図書　）

教科　芸術　の目標：

【知識及び技能】	各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

科目　書道Ⅰ　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導科目・内容	表現			鑑賞	評価基準	知	思	態	配当時数
			漢仮	漢	仮						
１学期	書道で学習すること 書写から書道へ 【知識及び技能】 用具・用材の特徴と表現効果との関わり　用筆・運筆から生み出される書の表現性 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に書道の幅広い表現の学習に取り組む	・書道の三分野（漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書）と、臨書・鑑賞・創作という学習方法があることを理解する。 ・小・中学校国語科書写と高校書道の学習の違いを理解する。 ・国語科書写で学習した内容（筆使い・字形など）を確認する。		○		○	【知】・芸術科書道で学習することを理解している。・小・中学校国語科書写で学習した内容を理解している。 【態】・高校書道での学習を主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。小・中学校書写で学習した内容を主体的に振り返っている。	○		○	4
	漢字の書 楷書 【知識及び技能】 書風と古典に基づく基本的な用筆・運筆 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想・工夫 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に楷書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、技法を習得する。 ・古典を臨書する意義について理解する。 ・唐の四大家の楷書作品の臨書から書風違いを理解し、技法を習得する。		○		○	【知】臨書を通して唐の四大家の楷書作品の字形や線質・点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。 【思】鑑賞を通して唐の四大家の楷書作品の書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に生かしている。 【態】唐の四大家の楷書作品に関心をもち、その美を味わおうとしている。	○	○	○	24
２学期	漢字の書 行書 【知識及び技能】 書体や書風と用筆・運筆との関わり 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想・工夫 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に行書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・行書の特徴を理解する。 ・行書の用筆・運筆の技法を理解し、習得する。 ・書道史における書聖・王羲之と「蘭亭序」について理解する。 ・「蘭亭序」「風信帖」を鑑賞し、卒意の書ならではの多様な書きぶりを理解する。 ・筆脈と抑揚を意識して「蘭亭序」「風信帖」を臨書する。		○		○	【知】臨書を通して「蘭亭序」の線質や点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。 【思】鑑賞を通して「蘭亭序」の書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に生かしている。 【態】行書の字形や用筆の特徴について、主体的に確認している。「蘭亭序」に関心をもち、その美を味わおうとしている。	○	○	○	28
３学期	仮名の書 【知識及び技能】 古典に基づく基本的な用筆・運筆、線質を生かした表現 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に仮名の書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・仮名の成立について理解する。 ・仮名の基本的な用筆・運筆を理解し、習得する。 ・平仮名・変体仮名について理解する。 ・「蓬莱切」「高野切第三種」を鑑賞し、典型的な仮名の美を感じ取る。　・「蓬莱切」をもとに連綿の法則を理解する。 ・「高野切第三種」の伸びやかな用筆・運筆を意識して臨書する。			○	○	【知】「蓬莱切」「高野切第三種」の臨書を通して、平仮名・変体仮名の字形や線質、連綿の法則を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。 【思】鑑賞を通して、平仮名の字形や線質、変体仮名の多様性を理解し、臨書に生かしている。　【態】仮名に関心をもち、典型的な古典作品である「蓬莱切」「高野切第三種」の美しさを味わおうとしている。	○	○	○	8
	漢字仮名交じりの書 【知識及び技能】 漢字と仮名の調和した線質・用途や目的に即した表現 【思考力、判断力、表現力等】全体構成と意図に基づいた表現 【学びに向かう力、人間性等】主体的に幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。　・書く言葉を決め、古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風・紙面構成などの観点で作品の構想を練る。 ・試作を重ね、表現を工夫して作品を仕上げる。 ・作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	○			○	【知】漢字仮名交じりの書の特徴を理解している。 【思】表現のねらいを明確に定め、古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かした構想を練っている。創作した作品を互いに鑑賞し合うことで、表現の意図と技法の効果について工夫している。 【態】漢字仮名交じりの書の創作に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	6
											合計
											70